

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	厚木市児童発達支援センターひよこ園		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 15日		～ 2026年 2月 8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	83	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	2026年 1月 15日		～ 2026年 2月 8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数) 15
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 15日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>安心、安全な環境の整備と取り組み</li> <li>ヒヤリハット報告を奨励し、療育室内の危険防止のための環境整備を実施している。また、虐待防止、身体拘束適正化のほか、感染症予防のための研修、非常時に向けた定期的な避難訓練などを実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>療育室内の点検を行い、危険個所には怪我予防のための緩衝材等の設置や倒れても怪我をしないパーティションを利用。</li> <li>避難訓練の段階的な実施により子どもたちへの負担の軽減および、訓練実施による理解が深まるようにしている。</li> <li>研修や訓練のメニューは毎年異なる視点で設定し、警察署</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際の場面に役立つような研修や訓練の内容で実施する。</li> <li>実施時間が限られることで参加が出来ない職員もいるため、実施方法を工夫する。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別支援計画と療育プログラム</li> <li>発達段階や特性を踏まえてアセスメントシートを作成し、個別支援計画で目標と支援方法を明確化している。また、これまでに培った療育プログラムが蓄積されており、様々な療育プログラムを子どもの適性に合わせて提供できるようになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童理解のための取り組みとして、年6回のスーパーバイザーによるケース検討会や自己学習の機会としてのブックレポートを実施している。</li> <li>支援計画作成のためのフォーマットや記録ソフトの使い勝手などの検討を随時実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援スキル向上のための研修機会について、適切な情報提供による職員の自発的な学習を促し、また、実施時間の工夫により時間内での研修機会を提供する。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者との信頼関係の構築と家族支援</li> <li>利用の際には、契約事項等のほか、個別支援計画による支援内容について丁寧に説明している。また、連絡帳、電話などの場を通して関係性構築を心がけ、事故や怪我、忘れ物などは速やかに報告を行っている。家族支援の一環として、懇談会、音楽療法、家族教室等を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気にかかることはこちらから問いかけ、些細なこともすぐに連絡をと保護者には伝えている。</li> <li>クレームなどには、まずは謝罪と感謝の気持ちを伝える。</li> <li>個別支援面談は、家庭の状況に応じて電話や家庭訪問で実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係構築は概ね良好ではあるが、具体的な支援という点では不足している部分もある。相談支援、保育所等訪問支援担当者との協力や他機関との連携をより進め、適切な支援に繋げる。</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>物理的な建物環境</li> <li>園庭の設置がなく、外遊びがしにくい。また、隣接地に新市庁舎が建設中のため、療育室から外が見えなくなり室内が暗くなった。また、収納スペースが足りず、おもちゃや机、いすを廊下に出している。半日クラスは子ども用トイレがなく、大人用トイレに便座を設置している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定基準には合致しているが、収納スペースが確保できなかったり、センター全体で子どもが遊ぶスペースがないため。</li> <li>新市庁舎建設については、市の方針のため改善等の余地はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園庭の代替として屋上の活用、地域内の公園等を利用している。新市庁舎が開館後は館内施設も活用する。</li> <li>おもちゃや机、椅子などの置き場について継続して検討がされている。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の子どもたちとの交流</li> <li>日々クラス在籍児は地域の子どもたちとの直接交流の場はほとんどない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の幼稚園や保育園との直接交流の場は持ちにくく、プライベートの観点からもひよこ園でのオープンなイベントをしにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の公園や図書館などの施設を積極的に利用することで、子どもたちのことを地域に伝えていく。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信の少なさ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙ベースでのお知らせ、緊急時はメールで伝達を行っているが、即時性のある伝達手段は電話のみということもあり、昨今の保護者がほぼスマホから情報を得ていることを考えると、LINE等の情報発信手段がないことが要因としては考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近年、活動の様子をSNS等で発信する事業所が増えているが、情報管理、個人情報の保護などの点で懸念がある。療育での様子について、保護者に伝える手段を今後は検討していきたい。</li> </ul>